

二〇一八年八月二四日

子等去にて辻の地蔵へ月まどか
お地蔵の提灯揺らす風は秋

菜々

こすもす

二〇一八年八月二〇日

潮騒の耳に涼しき松林
暮れそめてより裏山の虫浄土

愛正

三刀

二〇一八年八月二三日

強風に肢を踏ん張る飛蝗かな

せいじ

二〇一八年八月一九日

継ぎつがれきたる父祖の田稻は穂に

菜々

総玻璃のビールめつぶしの西日かな

ぼんこ

作り手の面影に似し案山子かな

さつき

人波に音聞くばかり揚花火

なつき

送り火を済ませ故郷後にする

智恵子

水底に躍る魚影や川さやか

明日香

向日葵と顔寄せあひてツーショット

満天

二〇一八年八月二二日

落つる日に伸びる案山子の影法師

智恵子

秋晴に祝詞高々地鎮祭

菜々

外出の一步に纏ひつく残暑

やよい

岳宮へまらずは一礼登山口

さつき

川とんぼ瀬石存問するごとく

明日香

二〇一八年八月二二日

筆洗池を埋めて蓮真白

菜々

毎日句会みのる選・二〇一八年八月二六日

秋声は木立を映す山湖より

はく子